



# kubotatu

look for the 21st century hero  
redo his office to the Santa Fe style

くぼたつ世界冒険録～オフィス改造のススメ編—— 8

## ★世紀のヒーローを求めて

方程式をびっしり書き込んだ紙を風で  
飛ばされたとき、アインシュタインは言った。  
「大丈夫だよ。いつでも書き直せるから」

Photo:Nakamura Tohru

サンタフェ研究所には「クリエイティブなインテリア」があって、それが「人と話す」ためのコミュニケーションツールになってた。とにかくいろんな家具を全部とっばらって空間を作り、テーブルと椅子をたくさん置く。ようするに、「一人で多くの人と座って話をしようじゃないか」という考え方。これがいいと思うよ。「なにはともあれ井戸端会議をしよう」って環境になっている。日本だと、右の写真にあるような赤い絨毯の和風のお店で抹茶を飲みながらって感じかな。  
「考える」ことを中心にして生き

## 「オフィス環境をサンタフェ風に改造する」 redo my office to the Santa Fe style

今年からワークスタイルを変えようと思った。去年、サンタフェ研究所に行ったんだけど、そのときに感動した「ものを考える環境」を今年こそ取り入れようと思うんだ。サンタフェにアメリカ中の天才が集まって、ニューヨーク証券取引所を始めアメリカが世界の金融市場のトップに踊り出るノウハウ「複雑系マーケティング理論」を打ち立てた。その秘訣はなによりも考えること。そして考えるコミュニケーションを第一優先にして環境作りをしていることに尽きるんだよ。だから、まずは机の上に何も置かないことにしたんだ。山積み資料はやんなきゃならない義務の催促でしかないから、そんな目の前に並べては想像なんてできっこないよね。だから全部捨てちゃう。簡単でしょ！そうするだけで、想像空間っていうのができちゃうもんだな。情報なんてその場の「うたかたの夢」みたいなもんだ、生鮮食料品と同じでね。資料なんて使わなきゃすぐに腐ってしまうものなんだよ。

それと書籍は大切だよ。でも所有すること自体は「提案」とは無関係なんだ。提案型のワークスタイルは読んで頭に入ったものだけが情報価値となるものだからね。知識というものは考えながら読み込んで始めて血となり肉となる。そして知恵がそれを使って新しいことを作り出すものだとは僕は思っている。だ

から想像空間に限って言うなら、とりあえず本はいらないのさ。書籍とか資料の類から必要なときに必要な情報を入手して、即座にアイデア提案に肉付けするように編集加工をしてしまうことが重要になるんだ。それをスムーズにできる環境を「クリエイティブビジネスオフィス」というんだよ。

画家にキャンバスと絵の具があるように、新規ビジネスを考えるにはチョークと黒板ね。あの粉が出るやつ。書くとカッカカッって音がするやつ。あれがいい。事実、黒板とインターネットにつながったパソコン、この2つがサンタフェ研究所の発想ツールだったんだ。そのなかで天才達がパソコンに向かってじーっと考えてるわけ。インターネットで資料を呼び出して、それを読み込んでるんじゃないかって考えていて、その資料はあくまでも参考にしてるだけ。考えごとのついでに資料をチラッと見るくらいでしかない。ロダンの「考える人」そのものなんだ。かっこよかったなあ。あくまで考える哲学者になっていた。

サンタフェでは黒板に書いてあることは方程式だけなのさ。考え出した結果を方程式にして公開するんだ。学問の世界というのは「誰が見ても事実」が前提条件だから方程式という立証できる記号で表現するんだ。建築家なら図面だし、

僕らみたいなプランナーの場合はキーワード、コンセプト、企画書、プレゼンテーションパネルになると思うんだけどね。

デジタル情報化時代に大切なことは「考えながら走り続ける」ことなんだ。

ぼくがよく思い出す映画で『アインシュタインとマリリンモンロー』ってのがあったけど、アインシュタインがひたすら紙に方程式を書いていると、そこに突風が吹いてきて方程式で埋め尽くされた紙の束が全部窓から外に舞っちゃうんだ。マリリンモンローが焦ってたら、「大丈夫だよ。いつでも書き直せるから」って言った。コレなんだよ、想像っていうのは。つまりたくさん資料が大切なんじゃなくて、頭のなかにあることが大切なさ。新陳代謝ってことかな。

さて、オフィスの改造だけど、本棚の上に黒板をボコってかぶせちゃう。そこにはさらにアートが必要だね。サンタフェ研究所に雑誌が置いてあったけどすべてアートの雑誌なんだよ。クリエイティブ=アートのさ。ぼくもコレクションしているアンディー・ウォーホルやタマヨの絵画とかを飾ってみることにしたよ。いい絵は空間を豊かにするよね。

このオフィスのポイントはインターネットと黒板とアート。それ以外はすべて捨てるっていうことに尽きるな。要は捨てる勇気だ。

改造したあとに自分で机についてみると、自分で言うのもなんだけど、やっぱり座った瞬間に快適だもんね。「ああ、いい気持ちだあー」。座った瞬間に「先行きは明るい」って気分になったね。やらせじゃなくて。

「過去のあと腐れはみんな一気に捨てちゃって、心機一転。みんな新しくしちゃおうよ」って、そんな気分になる。



改造前の紙にあふれたオフィス（上）  
改造後のサンタフェ風オフィス（下）

## 「いたるところに井戸端会議の場を作る」 gossip develops positive relationship

ている人たちがひとつの空間にいると、お互いになにかを考えようとしているわけだからケンカにならないの。人と人っていうのはポジティブな関係（= コラボレーションする関係）になるか、つぶしあう関係になるかの2種類しかない。相性の善し悪しって言うよりも、お互いの意識が建設的でいい影響を及ぼし合う存在かどうかってこと。これって男女も同じ。ある男女が会いました。しばらく付き合いました。二人

ともお互いを伸ばし始めました。これはコラボレーション。反対に、お互いをつぶし始めました。こうなるともう恋は終わったも同然なのさ。



コラボレーション関係にあるというのは「次になにやるうか」ってときに「おれはコレやりたい」って言うヤツばかりが集まるってことなん

だよ。逆に「もしこうなったらどうするんだよ」って言うのが集まるとつぶしあいになる。だから最悪のことばかり考えているヤツらからは何も生まれません。ビジョンを持って、それを明るく捉えていける連中は建設的な関係を作って上り詰めていくんだよ。

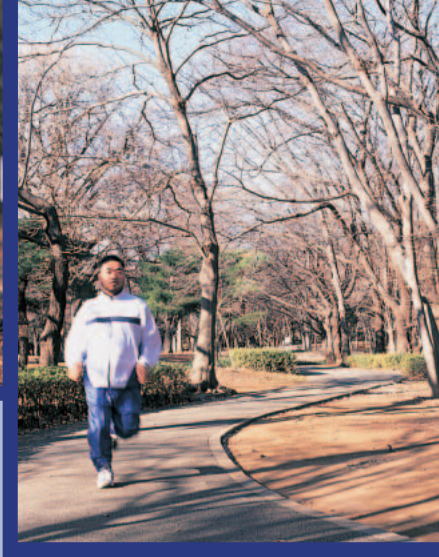
そこにはただその場に椅子やソファがあればいい。それだけのことなのに、その椅子やベンチがないんだな、最近の会社には。

オフィス近くの和風茶屋。いつでも井戸端会議ができる環境を持ちたい。





ジョギング後の休息。血のめぐりがよくなった脳内には、いつもわくわくするような企画が浮かぶ。



年に一度はフルマラソンに出場するくぼたつ。朝5時の代々木公園に行けばジョギング姿のくぼたつに会える。

## 「水の近くで体と心と脳内メンテナンス」 maintain your body, soul and brains!

オフィス環境だけじゃなくて、サンタフェの街そのものが極めてクリエイティブでインテリジェンスだったのが印象的だな。アメリカで最初にできた教会ってサンタフェにあるんだそうだよ。その教会に行ったんだけど、まあボロボロなのにやっぱりいいんだ、これが。日本で言う京都みたいなもんな。で、そこに優秀な人たちが集まって文化をつくっていく。景色もいいし空気もきれいだし、グルメ通が喜ぶようなかなりおいしいものがいっぱいあるんだ。それと、たくさんの人が街中いたるところでジョギングしてるんだよね。あんなにたくさんの人々がジョギングしている街は今まで見たことがなかったな。それで、あきらかにこの人たちは知的産業に本気で携わってるんだっていうのがはつきりとわかったよ。考えるためには、オフィス環境だけじゃなくて街の環境も大事なんだな。

でね、オフィスの環境を整えて、

クリエイティブな街を見つけたら、今度は自分の体力とか脳内の環境も管理しちゃうという話になるわけ。考えるっていうのもやっぱり体力を使うわけで、いざというときには頭の血のめぐりがものを言うわけさ。ほら、血のめぐりのいいやつってやっぱり頭いいから。体力と脳内のメンテナンスは情報産業には欠かせない条件だよな。

そこで「ジョギング」という行為が出てくるんだよ。走ると実際に頭よくなるよ、ほんと。毎日走ってれば、毎日酒をかつくらってダラダラしてるやつよりもずっと頭の回転はよくなると思うんだ。血行もいいから気持ちも開放的になるし、体が動くモードになっているから思いついたらすぐに行動できる。これに血のめぐりのよさが加われれば、情報産業に必要な3拍子がそろっちゃうわけだ。ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブスは懸命に自己管理しながら、いつもこんな状態を

維持しているんじゃないかなあ。

それからね、走ったあとにとにかく一人になる時間っていうのを作ることが重要だよ。一人でいると息が楽になってくる。なにを考えるでもなくボーッとしている時間を5分でもいから毎日持つといいよ。一人で考える生活時間というのは心のメンテナンスのための時間ってことさ。我々は忙しさにまけてとかくこのことを忘れがちだよな。カウンセリングなんてかかるよりも、1日少しでもいいからのんびりと「自分」でいる時間を持つことは大切だよ。

わかっちゃいるけどそれができない辛さも確かにあるけどね。特に情報産業なんてところにいるとなると、いかに心を自由に開放してあげられ

るかに意識を持っていかないといつか破綻がきてしまうような気がするよ。仕事中は一人でいることが怖いと思ひ始めたら赤信号なんだそうだよ。まあ、そう悲観的になることもないけど、自分を客観的に見られるような状態に戻すための癒しの時間を持とうということさ。

都会の喧噪の中では緑のある公園が噴水や池なんかの水辺にいるのがいいと思う。もともと我々動物は生命の起源である水の周辺にいると安心できるんだよ。僕にとっての水場はオフィスの近くの代々木公園。ここでジョギングして血のめぐりをよくしたら、噴水の近くで静かに脳内をメンテナンスするんだな。

くぼたつと編集部によるオフィス大改造と撮影が終わって……

倉園：今日、改造した部屋はもうあのままですか？

くぼたつ：そうよ。もうどかしちゃったものはあのままよ。それを狙ってたんだもん。ああいうエイヤのチ

ャンスがないと無理。ホント、あれを戻したら馬鹿だよ。だってあの絵だって、あそこに飾るのって一人じゃできないだろ。「こっちの方がいいんじゃない」とか言われると、「ああそう」ってなるから。あとね、今まで捨てられなかったものって

うのは「読まなきゃ」って思ってたものなのよ。ようするに、本当は読んでないし、いまさら読んでてもダメってものなわけ。

倉園：でも捨てるものが少ないほうですよ、普通はもっとある。

くぼたつ：うん、そうでしょ。でも1日か2日に一回はゴミ箱がいっぱいになるくらいに捨ててるのにまだあんなに残るっていうのはね。ま、価値観ってそんなものかもしれないよな。「これだけは捨てられない」というものだったりして。で、重要な書類なんだって言ったところで、ちょっと気がついてみれば大したものじゃないっていう（笑）。でも、デジタル化するのが一番いい



帰国したら、VAIOミュージッククリップは絶対に買う！



3Comのコネクテッドホームにあこがれる(上)  
モトローラの新型携帯に触手が動く(下)

## 「CESで次世代プラットフォームを見た」 my answer is "ubiquitous computing"

ラスベガスのCESに来て展示会場を歩きながら考えたことは、「考える場所をオフィスと限定してしまうと、かえって創造性を縛ることになる」ということだ。

場所や時間の問題ではなく、なにを仕事のプラットフォームにするかということ。たとえば、PCを仕事場のプラットフォームに決めた瞬間に、いつもPCを持っていなければならなくなる。最近、携帯電話のメールを使い始めたら、オフィスに戻ってLAN回線につないだPCからメールを読み書きすることが激減したよ。いまは、PCで加工した情報をサーバーに置いて、携帯でそれを読み出すという使い方がベストと感じるようになった。CESでも大きなテーマのひとつに「ワイヤレス」があったんだけどまさにこのことなんだと思う。

すぐに携帯電話の性能はPCクラスになるだろうから、会話、メール、ホームページサービスに加えてマルチメディアコミュニケーション(映像交信)ができるようになる。それから、ブロードバンドのインフラの普及にともなって、サーバーやウェブにLANのようにワイヤレスでアクセスすることもできるようにな

る。ポケットに入る端末が個人情報にアクセスするためのインターフェースになると思うよ。なにかを創れるように特定の空間を準備するのではなく、創れるところに行って創るという考え方に変わるよね。

コンテンツはウェブサーバーにアップして、提案のための素材データや音源、映像といった重いデータはメモリーカードを使って持ち運ぶで、必要に応じて再生機を選んで再生することになると思うな。それが一番手っ取り早くて楽だからね。SD形式なのかメモリースティック形式なのかはわからないけど、会場ではメモリーカードは2年後に1ギガまで行くと言っていた。いよいよポケットに入るインターフェースでギガビットネットワークを使いこなす提案型クリエイティブビジネスが繁栄することになりそうだ。

CESには「e-HOME」のようなコンセプトのもと、家庭内の家電とそのネットワーク管理をデジタルで統一した市場の可能性が展示されていた。携帯はそのインターフェースとしても活用されることになるようだ。そすると、仕事環境だけでなく、ADSLのように安価で高速なインフラを持った家庭の環境も同じインターフェースでコミュニケーションや管理ができるようになる。つまり、仕事と家庭を両立したい人

にとっては、家族とのコミュニケーションを増やしたり、仕事の効率をあげることで自由な時間を増やしたりできるのではないかと思った。ライフスタイルの新提案が必要な時期に来たということだ。1つは、「考えることを中心にしたクリエイティブオフィス」もう1つは、「ありあまる個人の自由時間への提案サービス」ということになると僕は思う。

TivoやReplayTVのようにリアルタイム再生をしながら録画も可能な機器が生まれると、提供側は映像コンテンツのさらなるハイクオリティー化を要求される。MP3の市場拡大は音楽業界の再編成だけでなく、文字情報と音声情報の境をなくしてしまうような予感がある。音声を録音すれば自動的に文字情報に変換もできるし、音声をそのままメールとしてやり取りできる。情報そのもののあり方にさらなる進化が待っているように思えるのだ。

会場のそっくりさんと記念撮影。



## 「思考と同じ速さで記録すればいいんだよ」 record your inspiration at thinking speed

ね。印刷物にするのってあんまり意味ないよね。だからやっぱり、とっておくことの重要度を1にして、次に考え出すことを9にするといひ。いままで逆になってない?

倉園：なってる、なってる。  
くぼたつ：たとえば、なにかを読んだら、「これはこう書いてあるけど、おれはこう思う」ってやるようにする。  
倉園：ああ、それはいいなあ。  
くぼたつ：でも、本に書き込んでおいたりすると、あとで見てなんでそのときこう思ったかってわからなく

なっちゃう(笑)  
倉園：文章にしようとするとき意識も入るじゃないですか。書いてるとすぐに推敲レベルに入っちゃうから。頭に浮かんだことをストレートにしゃべれたらテープに録っておくって方法もありますけどね。本気でやろうとするとなかなか難しい。  
くぼたつ：ただ単に、慣れていないと思うんだよな。自分の考えをしゃべることに。たとえば、テープに録っておこうとしてもなかなかうまくいかないっていうのは、慣れがない

からだと思うんだよ。タイプライターに慣れていないっていうのと同じように、テープレコーダーの前でしゃべることに慣れていないんだな。それに慣れたら強いと思うね。だってアメリカのエリートたちって、1日の情報の入力方式は全部これだよ。電話機に向かって思い付いたことをああだこうだと言って留守電に入れておいただけ。で、偉くなると、テープに吹き込んだことを次の日に秘書がチャチャッと文字におこしてくれる。会議でみんなに配るレ

ポートなんかもさくっと打ってメールで送ったりする。頭を使うことを最優先にすると、手なんかを使うよりも口を動かすことの方が速いっていうのがすごいよね。そこまでやって通常なんだよね。で、そこから先でやっと頭脳が出てくる。やっぱりね、竹槍でやってるよ。もし、機関銃を持ってたとしてもね、きって使っていないよ。竹槍のように使ってるんだろうね。その絵が、いいよ。ノートパソコン持って、普通の大学ノートと同じように使ってるの(笑)。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)